

2013研修分科会通信

私立大学図書館協会
東地区研究部
第5期研修分科会
開催のご案内

第6回

明治学院大学

本館8階 81会議室



第5回 2013.11.7 早稲田大学図書館にて

大学教育と大学図書館

By 大学図書館支援機構(IAAL) 高野

今回は大上段に構えて、大学教育と大学図書館について考えてみたいと思います。「大学図書館と大学教育」の語順ではありません。大学図書館は大学の研究・教育に寄与することが本来の目的です。今回は特に大学での「教育」に焦点をあて、大学の構成要素としての図書館という立場で、学習支援等の考え方を学ぼうと思います。

多くの大学図書館で情報リテラシーについて力を入れるようになってきています。また、素敵なラーニングコモンズがあちこちにできています。大学での教授法・学習方法から大学図書館を考えると、この2つがひとつの方向

性をもってベクトルが明らかになってくると思うのです。

文部科学省中央教育審議会大学分科会での審議のまとめをいくつか辿ってみましょう。2008年12月にまとめた「学士課程教育の構築に向けて」において、大学での初年次教育や教員のFD(ファカルティ・ディベロップメント)、職員のSD(スタッフ・ディベロップメント)についての提言がなされています。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm

2010年12月「大学図書館の整備についてー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」では大学図書館に求められる機能・役割として、学習支援及び教育活動への直接の関与が述べ

られています。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

また、2013年8月「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について」では、何度もアクティブ・ラーニングという言葉が使われています。http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338778.htm

大学図書館も大学教育についての改革が根底にあることを踏まえ、大学全体の視野が必要です。図書館は何をしているところか分からないと他部署からいわれがちです。図書館の役割を大学教育の中で捉えることで、図書館の専門性も浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

(URLは2013.11.06アクセス)

第6回会場案内

- 品川駅 高輪口 徒歩約17分 都バス「目黒駅前」行き「明治学院前」下車 約6分
- 目黒駅 東口 徒歩約20分 都バス「大井競馬場前」行き「明治学院前」下車 約6分
- 地下鉄南北線・三田線 白金台駅 2番出口 徒歩約7分
- 地下鉄南北線・三田線 白金高輪駅 1番出口 徒歩約7分
- 地下鉄浅草線 高輪台駅 A2番出口 徒歩約7分

キャンパス案内URL：<http://www.meijigakuin.ac.jp/campus/shirokane/>
会場は本館の8階です。

IAAL事務局連絡先

170-0004豊島区北大塚1-19-12 6F TEL: 03-5961-3401 FAX: 03-5944-5087

IAAL緊急連絡先(携帯番号) 090-9100-0387

講演

FD活動と協働できる情報リテラシー教育を考える
ーラーニング・コモンズの事例を含めー

講演：井上 真琴氏

(同志社大学企画課長・社会学部
嘱託講師)

『図書館に訊け!』著者

井上真琴氏は、図書館界で大ベストセラーになった『図書館に訊け!』の著者としてご存知の方も多いと思います。現在は同志社大学 企画部企画室企画課長、学習支援・教育開発センター事務長や社会学部講師など多くのお仕

事をなさっています。お忙しい中、京都から今回のためにお越しくくださいます。

最近のご執筆の記事としては、『図書館雑誌』Vol. 107, no.9 (2013. 9)特集・大学図書館2013に「学習を促し共学改善を導くラーニング・コモンズ」があります。

皆さんの頭の中で、学術審議会の答申で書かれているファカルティ・ディベロプメント(FD)と情報リテラシー、ラーニング・コモンズといったキーワードがどう結びつくか、整理する手助け/ヒントをお話しくさるのではないかと思います。

【以下、高野の私事です】

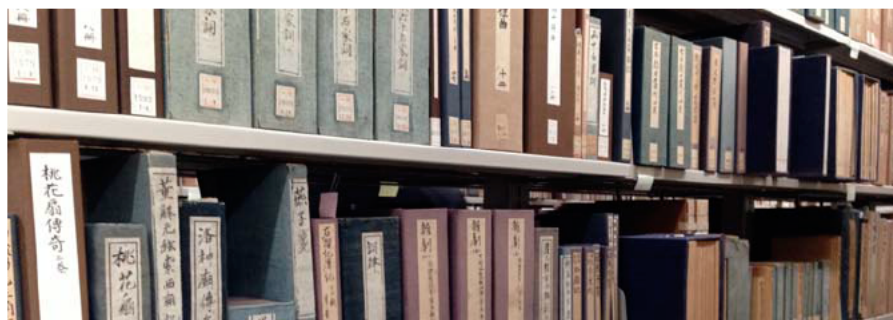
■今年の8月に京都に出張の折、同志社大学のラーニング・コモンズを見学させてもらい、目からウロコの思いでした。大学教員の中には、なぜ図書館員

が論文の書き方を教えようとするのか、教員が教えるべきことをしないから、図書館員がしようとしているが、卒論程度の執筆経験しかなく、また司書の資格には論文作成の技術は入っていないのに、果たして何をしているのか、といった見方が結構あるようです。教えるということではなく、自ら学ぶことを促すという考えからすると、ラーニング・コモンズは図書館の中でなくてもいいのですよね。

■また、先日図書館総合展の日にALAの方と会食をした際、アメリカの図書館でも今最も力を入れているのが、ライティングのモラルだという話を聞きました。誰も安易にコピペでレポートを書いてしまう時代の反映だということのようです。

■さて、皆さんは情報リテラシー教育をどのように考えますか。

Time table	13:00-15:00	12月研究発表会準備 と 共同製作作業
	15:00-15:15	ティーブレイク
	15:15-16:45	講演：FD活動と協働できる情報リテラシー教育を考える / 井上真琴氏 質疑応答
	16:45-16:50	事務連絡
	16:50-	(図書館見学が可能かお尋ねしてみます。)



課題について

2013研修分科会共同製作「電子資料と向き合う」(仮称)の分担作業を第6回に行います。第5回の課題として皆さんが提出されたのレポートをすべて読んでください。

その上でこの小冊子のタイトルの案を考えてくることを、第6回の課題とします。特に提出必要はありません。

研究発表会について

12月12日(木)の研究発表会には、できるだけ参加してください。

浅田さん、曾野さん、紀平さんは発表者として登録されているので、申込みの必要はありません。その他の方は、大学宛にきている案内の書式に記入して、各大学を通して参加申込みをしてください。

最終回

12月5日(木)は終了後に忘年会をしたいと思います。藤岡さん、岡さんが幹事をお引き受けくださいました。会場校の大谷さんもお知恵をお貸しくださるかと思います。あらためて、メーリングリストで幹事さんが連絡くださることになっていますが、できれば時間をあけておいてください。

研修分科会は終わりますが、オフの時間にこれからも交流を続けていけるといいですね。